

(2024年10月29日発行)

日本口腔顔面痛学会理事長 小見山 道

広報委員会担当理事 山崎 英子/委員長 池田 浩子

今回は、2024年9月8日に行われた口腔顔面痛臨床推論実習セミナーについて札幌医科大学医学部口腔外科学講座の都倉 堯明先生に報告していただきます。

## 口腔顔面痛臨床推論実習セミナー参加報告

札幌医科大学医学部口腔外科学講座 都倉 堯明

口腔顔面痛臨床推論実習セミナーが、2024年9月8日に慶應義塾大学信濃町キャンパスで開催された。筆者が暮らす札幌ではすでに朝は肌寒い時期となっているが、東京はまだ暑く、会場に到着する頃には汗だくになってしまった。本セミナーに参加した理由は、口腔顔面痛認定医の受験資格取得に必要な項目であることに加え、令和4年度から歯学教育モデルコアカリキュラムに臨床推論が導入されることもあり、系統立てて臨床推論を学びたいと考えたからである。

会場に着くとすでに、グループごとに大まかな席が決められていた。受講者18名に対して、8名のファシリテーターが指導に当たる体制となっており、疑問があった場合でもすぐに質問できる非常に贅沢な環境であった。

午前の講義ではまず、和嶋 浩一講師（元赤坂デンタルクリニック）より臨床推論による鑑別診断の進め方についての解説があった。特に仮説演繹法を用いた臨床推論について、実際に仮説演繹法を実践するためには各ステップで何をすべきなのか、また仮説演繹法にどのようなメリットがあるのかを知ることができた。我々は臨床の現場ではつい、パターン認識法に頼って診断をしがちであるが、仮説演繹法を用いることで診断の精度が上がるだけでなく、思考過程を記録に残すことで他者からの検証を受けることができ、また上級医が研修医などへ教育する場合にも非常に有効であると感じた。



写真1：会場でのグループワーク

次に小見山 道講師（日本松戸歯学部）より筋・筋膜性疼痛の診査法について解説があり、それを踏まえ各グループ内で筋・筋膜性疼痛診査法の相互実習を実施した。筋肉の触診法はどうしても書籍だけではわかりづらい分野であるが、触診圧から筋硬結の見つけ方のコツに至るまでファシリテーターに細かく指導していただき、ハンズオンからでしか得られない貴重な体験ができた。



写真2：筋・筋膜疼痛診査法の相互実習

午前の最後には実際の症例を用いた臨床推論実習がおこなわれた。本セミナーの特徴として、講義と実習がセットとなっていることが挙げられる。講義を聴いて仮説演繹法を理解したつもりになっていても、実際の症例に当てはめることは非常に難しい。講義を受けた直後に実習を行うことで、自分の理解の度合いを深め、セミナー終了後に実臨床で仮説演繹法を使うには何が重要かを、身をもって学ぶことができた。

午後からは大久保 昌和講師（日本大学松戸歯学部）が12脳神経の診査法の実際について解説し、続いて村岡 渡講師（川崎市立井田病院歯科口腔外科）が神経障害性疼痛の診査法を解説された。12脳神経のスクリーニング検査は重要だとわかっていながら、これまでの臨床ではしっかりと検査できていない分野であったが、本セミナーでは短時間でスクリーニングを行うための検査方法がまとめられ、すぐにでも臨床に応用できるようになっており非常にありがたかった。また、神経障害性疼痛は口腔外科医にとって実際に診察する機会が多い疾患であり、その診断基準から診査方法について再確認することができた。午前同様にこれらの講義を受けたのち、すぐに相互実習で知識の確認をすることができ大変有意義であった。音叉を使った聴覚検査は初めてであり、個人的に骨導聴力と気導聴力の違いは想像以上であり非常に印象深かった。



写真3：12脳神経診査法の解説

午後の臨床推論実習の症例は、午前と比べて現病歴がさらに複雑になっており、愁訴も複数あるといったものであったが、本セミナーの知識を応用することで、どのグループも最終的にはほぼ同じ診断にたどり着くことができた。これは鑑別診断があらぬ方向に逸れないように、ファシリテーターの先生方が随時軌道修正をいただいたおかげでもあるが、短時間であってもセミナー受講者に口腔顔面痛臨床推論のエッセンスがしっかりと浸透したことを実感することができた。セミナーの最後にポストテストを行って、本セミナーの知識を再確認し、セミナーは終了した。

本セミナーは口腔顔面痛臨床推論実習となっているが、本セミナーで学んだことは口腔顔面痛だけにとどまらず歯科全般に応用できる非常に有意義なものであった。すべての治療はまずは適切な診断なくしては成り立たないことを考えると、令和4年度から歯科教育モデルコアカリキュラムに臨床推論が導入されたことも納得である。最後に本セミナーの開催にあたり準備していただいた講師と関係者の方々、グループワークをともにしてくれた受講生の皆様に感謝申し上げたい。

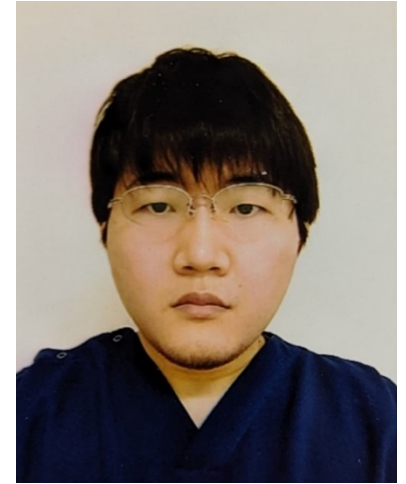


写真4：北海道から参加した筆者（左）、岡崎史佳先生（中央：札幌医科大学口腔外科学講座）、渡辺 陽久先生（右：北海道大学口腔診断内科学教室）

---

## 【都倉 堯明先生のプロフィール】

顎変形症から悪性腫瘍まで口腔外科全般の治療ができるように研鑽しています。口腔顔面痛はまだ勉強しはじめてから日が浅いですが、少しでも口腔顔面痛に悩む患者さんの役に立てるように頑張ります。



### 【略歴】

2013年 北海道医療大学歯学部卒業／札幌医科大学医学部口腔外科学講座入局  
2019年 札幌医科大学大学院医学研究科 博士課程修了  
2021年 苫小牧王子総合病院歯科口腔外科 科長  
2022年 札幌医科大学医学部口腔外科学講座 助教

### 【所属学会等】

医学博士  
臨床研修指導歯科医師  
日本口腔外科学会 認定医・専門医  
日本顎顔面インプラント学会  
日本顎変形症学会  
日本頭頸部癌学会  
日本口腔腫瘍学会  
日本痛み財団 いたみマネージャー  
日本口腔顔面痛学会

---

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: [jsop-service@onebridge.co.jp](mailto:jsop-service@onebridge.co.jp)